

注 12	注 11	注 10	注 9	注 8	注 7	注 6	注 5	注 4	注 3	注 2	注 1	注
コウリヤン	DDT	検疫	無蓋車	ベベコ	秘密動員	初入れ	肺浸潤	壮年期	甲種合格	突角陣地	仕末	用語
		けんえき	むがいしゃ		ひみつどういん	もみいれ	はいしんじゆん	そうねんき	こうしゅごうかく	とっかくじんち	しまつ	読み
い地域でも栽培	イクネ科の穀物であるモロコシ(たかきび)の中国名。乾燥に強く、米や小麦が育ちにくい	伝染病を持ち込まないように、診察や消毒をすること	屋根のない貨車。雨にぬれても問題ないものを運ぶのに用いられる	アリジゴク 砂にすり鉢のような穴をつくり、穴の底に隠れている虫が、足を滑らせて穴に落ちたアリをつかまえる	女性や徴兵の年齢に達していない少年などを、兵士としてではなく、秘密裏に動員する	初(脱穀していない米)を、貯蔵庫などに保管する	肺胞内に炎症による細胞や液体などがたまった状態 肺炎や結核、アレルギーなどが原因	青年期と老年期の間。30歳〜60歳前後	徴兵検査の区分 身体・精神ともに優れており、兵役に最も適していると判定された者	外側へ突き出した角の部分を目指す用語で、砲台や兵士を配置して敵への攻撃の死角をなくする構造	節約する	解説

注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注
慰問団	軍需工場	甘藷	玉音放送	家屋疎開	雑のう	銃眼口	背のう	モッコ担ぎ	乙種合格	検車区	残留孤児	用語
いもんだん	ぐんじゅこうじょう	かんしょ	ぎよくおんほうそう	かおくそかい	ざつのう	じゅうがんぐち	はいのう	もっこかつぎ	おつしゅごうかく	けんしゃく	ざんりゅうこじ	読み
戦地などで、そこにいる人々を精神的、肉体的に励まし、支援するために派遣される 団体	軍隊の装備、兵器、弾薬などの軍需品を生産・修理する工場	さつまいも	昭和20年8月15日、昭和天皇自らが太平洋戦争終結の決定を国民に伝えるために行つた放送の呼称	空襲による火災の拡大を防ぐために、住宅などを強制的に壊し、空き地にした政策	雑多な物を入れる袋や肩掛けかばん	壁や塀などに設けられた、鉄砲を放つための小さく開けた窓状の穴	軍人や学生などが使う、背中に負う箱型または袋状のかばん	縄や竹などで編まれた運搬具(モッコ)に土砂などの重いものを入れて、棒で担ぎ、二人で持ち運ぶ方法	徴兵検査の区分 甲種に次ぐ身体の強健さと判断され、現役兵役に適すると判断された者	鉄道車両の保守・点検・修理を行うための車両基地	第二次世界大戦後の混乱の中で、親と離ればなれになり、中国に取り残され、中国人養父母に育てられた日本人の子どものこと	解説

注	用語	読み	解説
注 36	すみさ		野に生えている草。「すいば」の飛驒方言か
注 35	剛膽周密	ごうたんしゅうみつ	大胆に決断・行動しながらも、細やかな注意を払うこと
注 34	股肱	ここう	もっとも頼みとする腹心の部下
注 33	機銃掃射	きじゅうそうしゃ	機関銃や機関砲を連射し、地上や海上の目標を攻撃する方法。空襲などで都市部やインフラに対し行われ、建物や鉄道などを破壊する甚大な被害をもたらした。その激しい「バリバリ」という音や、壁に残る弾痕など、戦争の傷跡として今日にも伝えられている
注 32	吏員	りいん	地方公務員
注 31	マスト		船の「帆柱(ほばしら)」
注 30	駆潜艦	くせんかん	対潜水艦戦闘を主任務とし、局地での警備、艦船の護衛に当たる小型の艦艇(軍艦)
注 29	駆逐艦	くちくかん	高速で重装備の水上戦闘艦
注 28	発疹チフス再(回)帰熱	ほっしんちふすさい(かい)きねつ	発疹チフスはリケッチアという細菌が原因でシラミやノミが媒介するリケッチア感染症であり、再帰熱(回帰熱)はスピロヘータという細菌が原因でシラミやマダニが媒介するらせん状の細菌感染症
注 27	原高梁	げんこうりゃん	注11(コウリヤン)と同じ
注 26	王道楽土建設	おうどうらくどけんせつ	帝王の歩むべき道に従い、武力ではなく徳をもって公平な政治を行い、安楽な国を築くという理想。特に満州国のスローガンとして掲げられたが、実際には日本の勢力拡大の口実となったとされている
注 25	バラック建	ばらっくだて	ありあわせの材料で粗末な建物を急造したもの

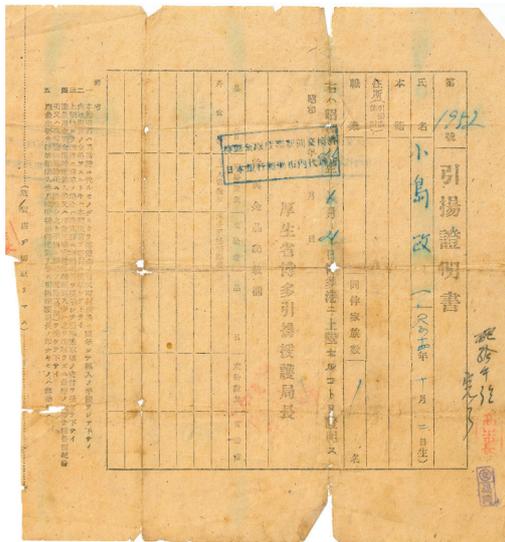
資 料

寄せ書き 春日町 小島 政一 氏

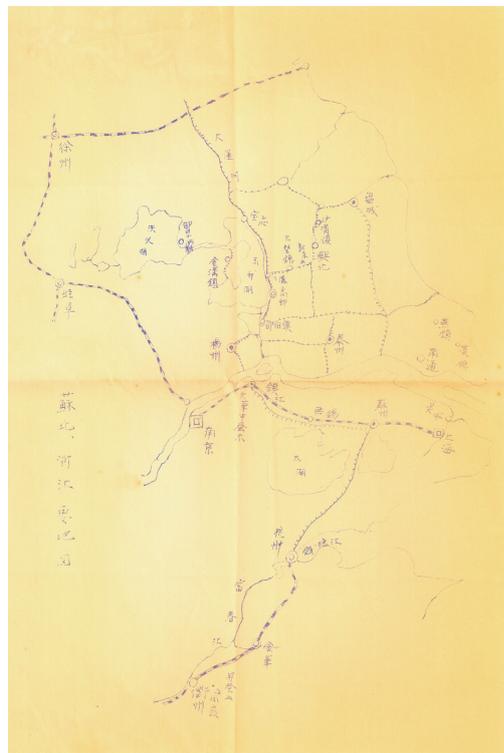
出征する兵士の家族や友人などが、その無事や活躍を祈るメッセージ等を日の丸の旗に書き込み、「お守り」として兵士に託したもの。



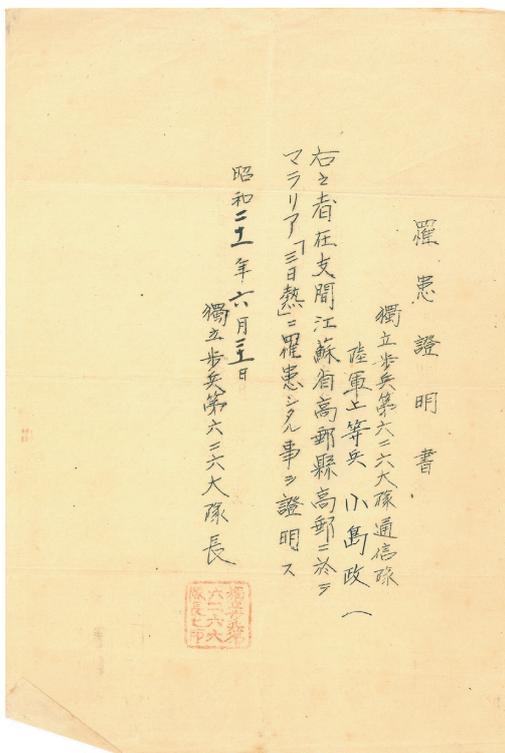
引揚げ証明書



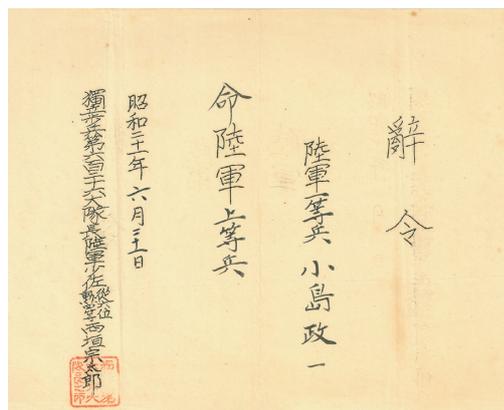
支那事変時、旧日本軍の進軍地図



罹患証明書



辞令



下一之町 酒向 繁造 氏

昭和十三年十一月 徐州大会戦において戦闘中、頭部貫通銃創を受けて戦死。

身に着けていたチョッキ	千人針
	
弁当箱、水筒、背のう	収納ケース
	

【戦没年別】

	昭和12年	昭和13年	昭和14年	昭和15年	昭和16年	昭和17年	昭和18年	昭和19年	昭和20年	昭和21年	昭和22年	昭和23年	昭和24年	昭和25年	昭和26年以降 (不明含む)	合 計
高山	31	47	26	36	24	64	130	586	537	87	19	12	1	5	18	1,623
丹生川	8	15	8	11	8	13	16	91	86	11	1	3				271
清見	10	4	5	2	10	9	10	69	55	4	3	1		1	2	185
荘川	6	4	2	6	1	4	9	45	42	5	1				1	126
一之宮	5	3	2	1	1	1	7	22	19	3		2	1		2	69
久々野	6	4	4	2	7	7	16	44	33	7	2				2	134
朝日					1	6	9	52	51	20	2	1			1	143
高根																62
国府						10	19	81	95	17	2	2		1	3	230
上宝					9	8	16	89	63	7	1	1			1	195
																合 計 3,038

※数値は、支那事变以降の戦没者で、各地区の市町村資料から引用しました。

※高根地区は年別の集計がないため合計数のみ記載しています。(支那事变14人、太平洋戦争48人)

※昭和21年以降の戦没者数は、戦争に起因する傷病による死亡や、戦死広報等で死亡が明らかになった方々です。

【戦没時年齢別】

	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳
高山	1	3	4	6	9	13	30	94	105	107	69	45	44	42	33	35	33	30
丹生川	5		3	2	7	12	21	44	34	17	14	14	11	8	6	8	2	2
清見					1	5	14	32	24	14	16	12	10	4	10	10	3	4
莊川					1	5	7	9	19	12	8	13	4	8	5	2	3	4
一之宮		1	1		1	3	6	11	11	5		3	3		4	3	3	1
久々野			1	2	5	7	13	15	20	11	7	6	9	6	9	1	4	2
朝日				1	1	3	10	9	16	13	6	9	10	7	7	6	2	3
高根																		
国府	2	1	1		2	7	20	27	21	20	16	11	15	11	8	9	10	6
上宝		1	1	4	5	5	19	24	27	19	16	9	9	6	7	11	8	4

	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳以上	不明	合計	
高山	31	22	23	19	17	11	9	8	10	6	1	3	2	2	1	2		753	1,623	
丹生川	6	4	6	4	3	2	2	1	1	1				1		1	2	27	271	
清見	5	8	1	1	1	2	1		1	1	2	2	1						185	
莊川	3	3	4	3	1		2	1		1			1					7	126	
一之宮	3	1	3	1	2		1			1								1	69	
久々野	3	4	2	1	1												1	4	134	
朝日	4	9	3	1	4	6	3	1	1	1	2	2	2				1		143	
高根																			62	
国府	6	5	1	3	3	2	3	2	2	1				1				14	230	
上宝	9	3	3	1			1				1			1				1	195	
																			合計	3,038

※数値は、支那事変以降の戦没者で、各地区の市町村資料から引用しました。
 ※高根地区は年齢別の集計がないため合計数のみ記載しています。

高山市平和都市宣言

高山市は、飛騨山脈に代表される豊かな自然に囲まれ、祭りや匠の技などの伝統文化を育み、「国際観光都市」として、周りとのつながりを大切にしてきました。

さらに、国際平和デーを「高山市平和の日」と定め、飛騨高山の地から、世界に向けて恒久平和の実現を訴えています。

しかし、世界の各地では、紛争・テロ・飢餓が後を絶たず、核兵器の脅威にさらされている現実があります。

わたし
私たちは、世界中の人々が安心して平和に暮らせる日が必ず来ることを願い、行動します。

わたし
私たちは過去から学び、未来へ伝えていきます。

戦争と核兵器の悲惨さ、愚かさ、恐ろしさ、そして命の大切さを。

わたし
私たちは守り続けます。

豊かな自然、誇れる伝統文化、人と人との絆を。

わたし
私たちは大切にします。

多様な文化を理解し、尊重することを。

わたし
私たち高山市民は、ここに高山市が永久に平和都市であることを宣言します。



「平和への絆」の鉦について

市役所本庁舎 正面玄関前広場に設置している平和のシンボル「平和への絆」の鉦(かね)は、どなたでも打ち鳴らしていただけます。是非お立ち寄りください。

問合せ先

高山市生涯学習課
【TEL】0577-35-3155 【FAX】0577-35-3414
【E-mail】shougaigakushuu@city.takayama.lg.jp

かたりつぐ おもい ～終戦八十年～

発 行 高山市遺族会連合会
〒506-8555
岐阜県高山市花岡町2丁目18番地
(高山市役所 福祉課内)
電話 0577-32-3333(代表)
0577-35-3356(福祉課直通)

編 集 戦後80年記念誌編纂委員会
中林 利數
金井 信
糸田 恵子
小林 浩
大家 忠
黒内 章一
高山市遺族会連合会事務局

印 刷 高山印刷株式会社
2026年3月 発行

※当事業は公益財団法人たかしん地域振興協力基金の助成を受けております。

